

研究結果

資産価格バブルと金融政策有効性についての分析 － 日本の経験、教訓及び示唆

現在、世界的金融危機を直面している時に、金融政策が資産価格バブルをいかに対応するかはますます重要視されつつである。1980年代末期、日本経済は物価安定した背景の下に、地価と株価を代表する資産価格バブルが形成、発展と崩壊を経験し、金融システムと実体経済が著しく損なわれ、日本経済は「失われた十年」と呼ばれる長期不況に陥ったのである。バブル経済の原因がさまざま議論されたが、資産価格の急激な変動が金融政策運営上に軽視されたことは明らかにバブル経済の形成・崩壊の一つの要因となったのである。

本論文は日本バブル経済期の資産価格と金融政策を対象とし、以下の問題を取り上げて分析してきた。すなわち資産価格に対して金融政策がどのように対処すべきか、資産価格と金融政策の最終目標変数である一般物価との関係がどうなっているのか、資産価格バブルの技術上の判断にどのような困難であるか、金融イノベーションの流れによってますます高度化する金融商品の資産価格変動に金融政策がどの程度有効性を発揮できるか、などである。

日本の金融政策の経験、教訓を振り返ってみれば、中国金融政策への示唆がいくつかある。①資産価格を政策目標自体として位置付けてはいないが、金融政策運営上において、一般物価だけを注目する訳ではなく、資産価格変動を「警戒信号」や「情報変数」として注意を払わなければならない。②中央銀行の独立性を保つことにより、市場との対話機能を強める必要がある。③中央銀行は資産価格バブルへ対応する際に、金融政策のタイムリーな調整と金融システムの安定における役割を担わなければならない。④金融政策のみで資産価格バブルを抑えるには限界があり、財政、税収及び法律など総合的な経済政策を動員すべきである。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

「20世紀90年代における日本の金融危機とその経験・教訓」・劉瑞・「金融危機対応・アジア金融市場新秩序の構築」国際学術討論会・2008年11月16日・中国社会科学院2階報告庁

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)

劉瑞「資産価格バブルと金融政策有効性についての分析－日本の経験、教訓及び示唆」・王洛林編・『日本経済青書(2009)』・社会科学文献出版社・2009年7月